



## ■明治用水開削の器具 (愛知県安城市 明治川神社)

### 北極星頼りに方角・距離を測量

矢作川を水源とし西三河8市に農業や工業用水を届ける明治用水。開発に尽力した江戸時代の豪農・都築弥厚ら4人をまつる明治川神社は、ゆかりの品々を所蔵している。

明治用水土地改良区が運営する「水のかんきょう学習館」は、その一部を保存展示する。なかでも木製の測量器具「見盤」は、弥厚に協力した江戸後期の数学者石川喜平が使用したもの。北極星を頼りに方角や距離を測ったという。

1822年から5年近くかけ

て進められた測量は、反対する農民の妨害を避けるため、夜間に作業をしたという。改良区には32年に作られた初の測量図が残る。

「図面に記された水路は現在とほぼ変わらない。いかに当時の技術が優れていたか驚かされる」と学習館の担当者。

神社は明治用水が完工した5年後の1885年に建てられた。近くには、通水式に参列した当時の松方正義内務卿が「疏通千里・利澤萬世」と記した記念碑がある。(中野龍三)



江戸後期の数学者・石川喜平が使用したという測量器具「見盤」  
|| 愛知県安城市

神社は愛知県安城市東栄町6の25の1。所蔵品は水のかんきょう学習館(安城市大東町22の16)で見学できる(無料、平日のみ、月曜休館)。

◆31日からの「ぐるり東海」で、三重県紀宝町を紹介します。次回の「杉本昌隆七段の棋道愛楽」「寺社逸品」は11月13日の掲載です。+C (<http://www.asahi.com/pluse/>) はデジタル版でもご覧いただけます。